1996年　11月1日　発行

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

14 道正先生講演 8周年大会号

発行者　平形義人
発行所　ぐんま日独協会

〒371　前橋市三俣町3－11－12
☎0272-31-7212 FAX0272-32-4082

・ぐんま日独協会8周年大会　・平成8年4月14日　・高崎労使会館
（前列左より　角田副会長、古屋理事、平形会長、道正邦彦先生、中原一男県公安委員長、花井清先生、須郷副会長）

■ハイマート14号の主な内容■

● 8周年大会・講演会の記録……2～4
● 春の園遊会・ドイツ大使公邸の夕涼み……5
● 会員のお便り・クイズ・ケルン日本文化会館……5～6
● 生誕200年記念企画展「シーボルト父子のみた日本……7
● ニュース・催しの案内……8

＊お知らせ＊

ぐんま日独クリスマスの集い

・日　時　'96.12.8(日)　PM2:00～4:30
・場　所　前橋市　群馬会館（地下食堂）
・会　費　2千円　交換プレゼント（千円相当）
・申込み　11月末締切り、電話可
・5分間スピーチ希望者は受付まで
・駐車場は県庁・市役所・利根川河川敷を
ご利用下さい。

題字：平形義人　表紙写真：塚越平人

ぐんま日独 設立8周年大会の記録

高崎市　朝　雲　久児臣

平成8年4月14日（日曜）、高崎労使会館において「第8回定時総会」と、「記念講演会」が開催されました。そのあらましを報告いたします。

第8回定時総会報告

午後1時10分から同40分まで／司会・須郷副会長／平形会長から包括的なあいさつが行なわれたあと、田口常任理事から中曽根参議院議員はじめ出席来賓が紹介され、土屋常任理事からドイツ連邦共和国大使ドクトル・ハインリッヒD・ディークマン及び全国日独協会樋口会長、小寺県知事、萩原前橋市長他多数の祝電披露がなされて議事に入る。／議事　イ、**議長選出**・角田副会長が満場の推薦をうけて議長席につく。ただちに、ロ、**経過報告並びに事業計画**を北爪常任理事にうながす。1年間の主な経過が述べられ、新年度の事業計画がよどみなく説明される。議長の「以上の案件につきましてご異議ありませんか」と会員にはかられ、賛成承認になった。ハ、**伊藤会計理事の会計報告**がなされ進む。伊藤会計理事から平成7年度決算が読みあげられる。議長の問いかけに会員は「異議なし」の声をもって可決。古屋会計監査から「決算報告の審査の結果は相違ありませんでした」という発言によって決算報告は了承された。ひきつづき8年度予算案を会計理事がプリントを読みあげる。議長の「ご意見、ご質問はありませんか」という呼びかけに、会員から再び「異議なし」の声があがり、今年度予算は可決決定した。（決算・予算は別表のとおり）。議題ニ、**役員改選**について議長から「会長の改選についていかがとりはからいましょうか」と発言がある。会場からは「会長留任！」と、そちこちから声が挙がる。その結果、平形会長が満場一致で決定された。議長は「ただ今会長が選ばれましたので、他の役員については本会会則第7条により、新会長から発表していただきます」ということになり、しばらく休憩が宣せられたのち、会長から新役員の名が読みあげられる。拍手をもって承認され、定刻に定時総会は無事に終了となった。（役員名は別表のとおり）。

記念講演会

午後2時から3時半まで、道正邦彦先生の「ドイツと私」という題で記念講演が行なわれた。司会は須郷副会長。平形会長が記念講演についてのあいさつを述べられたあと、対馬副会長（新任）が講師の紹介を要領よく語る。元福田内閣官房副長官、労働政務次官などを歴任、現在は身体障害者雇用促進協会会長、グリユックアウフ会会長などに就任しているとのこと。講演要旨は次のようであった。

「世界の水戸黄門と自負されていた故福田赳夫総理のもとで官房副長官をつとめ、中曽根康弘元首相とはベルリン日独センターの設立などで関係を深めたものでした」と道正氏はそんな親しみのある語り口で、ベルツと花さんのこと、森鴎外の下宿先が今も記念館として日独文化のかけ橋になっていること。そして、ケーベルが明治26年来日し東大で西洋哲学を教え、学生から敬愛をあつめたことをふりかえりながら、西田幾太郎・夏目漱石・高山樗牛・安倍能成などの名前をポンポン掲げ、学問と人柄について大きな影響を与えたことを話す。ケーベルは

大使の祝電

お祝い

群馬日独協会設立8周年にあたり、平形会長はじめ会員の皆様には心よりお祝い申し上げます。貴協会が日独両国民の友好のため、末ながく実り多いご活躍をされますことをお祈り申し上げます。

ドイツ連邦共和国大使
ドクトル　ハインリッヒ　D．ディークマン

講演される 道正 邦彦氏

1996, 4, 14　高崎労使会館にて

役　員　名

〔会　長〕
平　形　義　人
〔副会長〕
角　田　　勤
佐　藤　進　一
中　沢　晃　三
木　暮　金太夫
須　藤　登世治
朝　雲　久児臣
対　馬　良　一
〔常任理事〕
中　村　鉱　一
石　井　直　人
土　屋　喜代子
北　爪　和　男
高　寺　宏　延
田　口　久美子
井　口　　實
豊　泉　伊三男

堀　口　吉　七
高　橋　徳　光
稲　野　幸　子
〔会　計〕
伊　藤　廉　平
〔監　査〕
古　屋　賀津子
黒　田　とめ子
〔理　事〕
久　保　　洋
松　浦　孝　久
渋　川　みどり
富　岡　恵美子
馬　場　勇　臣
横　山　秀　夫
横　川　幸　夫
須　田　睿　一
信　沢　雄　一
金　澤　英　治

〔顧　問〕
小野里　光　明
関　口　陽　二
塚　越　平　人
小　林　　喬
小　林　和　良
白　倉　卓　夫
井　草　憲太郎
〔参　与〕
杉　本　隆　雄
田　上　　宏
田　島　郁　文
大　野　博　重
桑　原　俊　夫
石　井　昭　夫

ぐんま日独協会

〈決 算 書〉

収入の部		
項　目	金 額(円)	説　　明
会　費	1,140,000	会計会費 3,000円×106人＝318,000円 家族会費 500×16＝8,000 法人会費 10,000×50＝500,000 平成7年度大会参加費 2,000×96＝192,000 「クリスマスの集い」参加費2,000×61＝122,000
雑収入	41,726	寄付金・利子等
前期繰越金	240,690	
計	1,422,416	

支出の部		
項　目	金 額(円)	説　　明
会議費	305,385	平成7年度大会費 250,000円 会議費他 55,385
通信費	179,350	郵便切手・送料他
事務費	34,259	事務用品他
印刷費	499,138	会報・講演会ちらし他
図書研究費	80,000	図書購入他
講演会費	49,200	会場借り上げ他
広報費	80,000	ホームステイ・その他企画協賛
次期繰越金	195,084	
計	1,422,416	

〈予 算 書〉

収入の部		
項　目	金 額(円)	説　　明
会　費	1,160,000	会計会費 3,000円×120人＝360,000円 家族会費 500×20＝10,000 法人会費 10,000×55＝550,000 平成8年度大会参加費 2,000×120＝240,000
雑収入	50,000	寄付金・利子等
前期繰越金	195,084	
計	1,405,084	

支出の部		
項　目	金 額(円)	説　　明
会議費	400,000	平成8年度大会費 320,000円 会議費他 80,000
通信費	180,000	郵便切手・送料他
事務費	50,000	事務用品他
印刷費	480,000	会報・講演会ちらし他
図書研究費	100,000	図書購入他
講演会費	100,000	会場借り上げ他
広報費	50,000	ホームステイ・その他企画協賛
予備費	45,084	
計	1,405,084	

※3月31日現在　収入支出差し引き残高　195,084円

1996.4.12　上記の通り相違ありません　会計　古屋賀津子 ㊞
〃　　〃　　監査　黒田とめ子 ㊞

大正3年8月、21年間の教鞭に終止符をうつと、船の出発に際して見送りの学生に「さようなら、ごきげんよう！」と叫んで故国ドイツに向かっていった。戦後の東大総長として有名だった南原繁も、ケーベルやクラーク（札幌農学校長）の影響を少なからず享受している。哲学・思考などの精神文化において、日本はドイツ指向であったことは異論のないところだったが、戦後はアメリカニズムに変貌していった。時代の趨勢であったのかも知れない。と氏は問いかけるのだった。

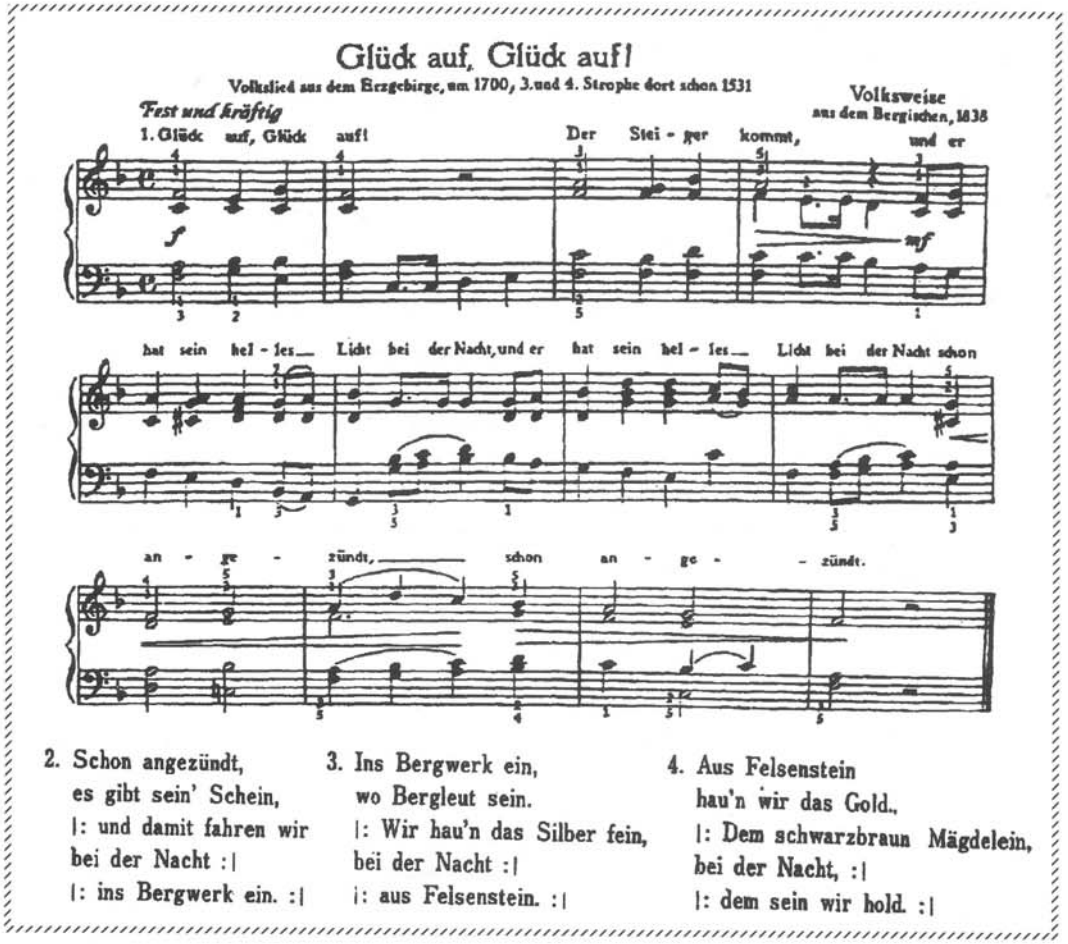
昭和35年、労働省課長当時、西ドイツ日本大使館書記官として4年間ドイツに駐在。この国の完全雇傭に驚嘆させられる。その当時ドイツでは120万人の外国人労働者を就労させ、住宅問題はすでに解決していたのである。あらゆる部面における日独の格差を、しみじみと見せつけられた、と氏は述懐する。このような時期に、日本人炭鉱労働者問題が浮上してきた。昭和32年から40年にかけて日本の若い炭鉱労働者が延べ430人、ルール炭田にやってきたのである。勤勉で、知識欲に燃えた日本青年は、その模範的な労働作業や日常生活によって、地域の人々にきわめて好印象を与えたのだった。1期3年間の炭鉱労働を送った青年たちが日本へ帰国するとき、地元の人々に別れのあいさつを交わすと、泣き崩れる老婆もでるほどだった。彼らがドイツ人といかに親愛の情に満ちた生活を送っていたかがこのことによってよくわかる。「100人の外交官に勝る民間外交を、日本の炭鉱青年は果たしてくれたのだった。」氏の言葉に聴衆は思わず大きな拍手をおくった。「グリュックアウフ会」はこれらドイツ派遣青年達によって後に結成され今日に及んでいる。今日の会場にそれらの会員が東京方面から10名近く参加していることがわかった。結ばれた絆のつよさにわれわれは感銘したものである。

最後にドイツにおける「介護保険制度」について氏は言及した。この制度をめぐって日本の国内では、大きな国民的課題として政治の場で議論されている。ところがドイツでは20年間の真剣な討議を経てすでに実施されているとのこと。それには財政問題において、教会が古い歴史のなかで地道に行なってきた風土が、すぐれた介護制度の基礎にあることを、氏はくり返し指摘していた。そのことに触れて、われわれにつよい印象を与えたことを記述し、ここでは詳細な制度の内容は略すことにする。

「ドイツと私」の講演には、日本とドイツの政治指導者のことや、政治の一局集中をめぐるエピソードや、鋭い見識が随所に織り込まれていたが、これらは紙面の都合で割愛させていただいたことを講師並び読者に了承を得たいとおもう。

講師に対する謝辞は、朝雲副会長が「今回の講演から久しぶりに哲学と文化についての薫り高い内容と、先生の風貌を感じとることができました」という感謝の意が表明された。そのあと記念品贈呈が行なわれ、午後3時40分、講演は好評のうちに終わった。

正面玄関で和やかな記念撮影をすませたあと、**「懇親会」**が始まる。午後3時50分から4時45分まで。高寺常任理事が司会を担当、木暮副会長の開会の辞、道正先生の乾杯を経て懇談に入った。スケジュールどおりの進行に関係役員はほっとする。まことに整然とした「8周年大会」はようやく幕を閉じようとしていた。豊泉常任理事の「閉会の辞」が力強く述べられ、この会は終始、親和に満ちた雰囲気のなかで「ぐんま日独」の前進と発展を展望させたのである。



グリュックアウフの歌

館林市　対　馬　良　一

「グリュックアウフ、グリュックアウフ、デアーシュタイガーコムト」

高崎労使会館で行なわれた今年の定期総会後の記念講演会の席上、前福田内閣官房副長官の道正邦彦氏（現財形住宅金融株式会社会長）をはじめ元西ドイツ派遣炭鉱労務者とその家族の親睦団体であるグリュックアウフ会の会員によるドイツの炭鉱節的な歌「グリュックアウフ」の歌声は大会に華を添える爽やかなイベントでした。

グリュックアウフの歌はザクセン州のフラブルクが起源ときいた。1700年頃に出版された鉱夫の歌集にのっている。荒らくれた山男の歌としてはスマートでさわやかな曲趣が親しまれている"Glück Auf"は「今日は」「ご安全に」に代る鉱夫の挨拶語である。私も三年間の在独期間中、何十回、何百回となくこの歌をうたい、帰国後も我々の会合席上でも必ずうたいます。また、祝い歌、葬送曲として冠婚葬祭時にも歌いました。昭和33年当時、私が住んでいた街は、人口39万人のゲルゼンキルヘンという都市で炭鉱、鉄鋼、ガラス工場が基幹産業としてルール工業地帯の中心的な街でした。炭鉱も11炭鉱もあり当時の若者は鉱山学校の金モール、金ボタンの付いた制服を着るのが夢だった。この鉱山学校（Steigerschule）に入学後はあらゆる技術、教養、人格の試験に合格した者だけが着用出来る制服だけに当時の若者の憧れの職業でもあった。このSteigerschuleを卒業した人が歌にでるデアーシュタイガーです。今では炭鉱、鉱山も少なくなりグリュックアウフの歌をうたう機会も少なくなっているようである。当時（昭和33年当時）は日本の600有余あった炭鉱も現在は九州の松島炭鉱、北海道釧路の太平洋炭鉱の二山のみとなりいずれも海底を掘削する海底炭鉱です。ドイツでも炭鉱の企業合理化により縮小、閉山が多かったと聞いている。

私たちゲルゼンキルヘンの仲間とその家族で10月６日より12日間ドイツ及びヨーロッパ旅行に行くことになりました。青春のエネルギーを打ちつけて働き学んだドイツ、世話になった下宿先のドイツ人家族、鉱山学をドイツ語で頭の中に詰め込ませた教育シュタイガーそして坑内で仕事と人の扱い方を教えてくれたシュタイガー、これらの人々と再会出来る楽しみと、第二の故郷ドイツで力一杯"グリュックアウフ"の歌をうたって来るつもりです。　嬉しいとき、悲しいとき、何かにつけて歌ったグリュックアウフの歌は私の心の歌としていつまでも歌い続けたいと思っています。　　グリュックアウフ

春の園遊会に招待されて

日本温泉協会会長・ぐんま日独協会副会長
伊香保町　木　暮　金太夫

天皇・皇后両陛下主催の春の園遊会は昨年、阪神大震災により中止になったため二年ぶり、五月二十九日赤坂御苑で開催された。日が差して時々汗ばむような陽気の中、両陛下は皇太子ご夫妻ら皇族方とともに広い苑内を回り出席者と歓談された。

本県からの招待者は副知事の高山昇氏や小山禧一氏等七名であり、それぞれ同伴にてお招きをいただいた。私共は本年春、内閣総理大臣主催の桜を見る会（四月十日、於新宿御苑）に招待され、さらにまた今回の天皇・皇后両陛下主催の園遊会への招待であり大変光栄に存じている次第であります。

園遊会では皇族方、とくに三笠宮様に、木暮さんは伊香保ですねとお声をかけていただいた。よくお分りだと思っていたら、以前宮様は東京女子大でオリエント史の講義をされており、同大の同窓会名簿で家内の名をみて知っておられたようでした。そこで私共も伊香保にも是非お越し下さるよう申し上げることができた。

左より３人目、ディークマン大使、木暮副会長、
大使夫人、木暮夫人

その後広い苑内を回遊しているうちに昨年春ぐんま日独協会総会にお越しいただいたドイツ連邦共和国大使、ディークマン夫妻等大使館員一行と偶然出会い、早速記念写真を撮った。ここに掲載したのがこの時の写真であります。お互い一年振りの再会を喜び会いたのしい一時を過ごすことができ、園遊会が一そうたのしいものとなった。春五月赤坂御苑の池の菖蒲の美しさが何時までも心に残る会合であった。

ドイツ大使公邸の夕涼み

平　形　義　人

８月１日ドイツ大使ディークマン御夫妻のお招きで、公邸の純日本風の鐘撞き堂も備えられたお庭でビールパーティがあり、樋口廣太郎全国日独協会連合会長のお礼の御挨拶も、盛んな蝉しぐれの中で、盛夏にありながら、千金の一刻を過ごさせて頂きました。日独協会を５月まで長年に亘り御世話下さった吉田茂孝常務理事に御礼申し上げたり、代られた藤本修常務理事にぐんまＪ．Ｄ．Ｇ．の御指導をお願い申し上げました。今春の大会に御出席下された花井清理事をはじめ、グリュック・アウフの顔見知りとなった会員と再会を喜び合いました。会も半ばの頃、本年５月千葉県に『千葉日独協会』が誕生したことが紹介され、満場の拍手を浴びました。

クイズ・「ドイツの町の象徴」

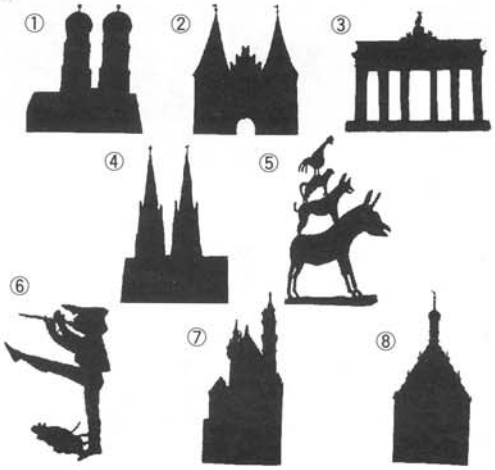
出題・沼田市　角　田　　勤

沼田市とフュッセン市との姉妹都市締結が出来て、この９月末で満１年。今までにも増して交流が盛んです。フュッセンやロマンチック街道を訪れる市民も多くなってます。私としては、そこだけでなく、ドイツの他の町々をも是非見てもらいたいと願っておるのですが……。
そこで問題！

次の建物や像は、その町の象徴ともいえる有名なものです。さて、その町の名は？

（ヒント）

① ビヤホールで有名なバイエルンの大都市。
② 「ハンザの女王」と呼ばれた町。
③ 以前、この門に沿って壁があった。
④ ドームといえば、ここライン沿いの町。
⑤ 「……の音楽隊」の像。
⑥ 「ネズミとり男」で世界中に知られた。
⑦ 「白鳥城」はドイツの大観光地。
⑧ マイスタートゥルンクの仕掛時計は、その伝説で有名。



フランクフルトの休日

前橋市　佐藤進一

電車の中のシュミットさん

フランクフルトに住むシュミット婦人とは昨年ザールブリュッケンの独日協会総会で知り合った。かなりの年輩であるが、ホームステイプログラムの実行委員として可成り精力的に働いている人である。帰宅後間もなく分厚い封書が届き、「今秋日本各地を旅行する予定だけれど、お宅へ泊めて貰えないか」と云う依頼の文面であった。私は直ぐＯＫの返事を出した所。10月初旬前橋へ現われた。彼女は各地の友人宅をホームステイして日本一周を企てる旅であった。私の宅は家内と２人暮らしなので手分けして案内した。３泊４日の短い滞在であったが彼女は大変喜んでくれ、その後も文通を続けて来た。今年になり今度は私の方からフランクフルトへ行きたい旨伝えた所、都合の悪い日はいつといつと報せて来たので、日程を合せる事にした。６月上旬私はウイーンの友人を尋ねた後フランクフルトへ飛ぶことにした。彼女は私の便りを聞くと空港内の面会所（Treff Punkt）で会う様指定した。

彼女の家は市の東外れの住宅街にあるが、地下鉄の接続がこみ入っており、始めての者が独りでは辿りつけないのである。閑静なアパートの１階（日本流では２階）に住むが、広い応接間を私に貸してくれた。鍵を私に預けると自由行動を勧めた。

翌日は周辺の都市を尋ねることにした。ヴィースバーデンは40km西の保養地で温泉が出るので有名な街である。マインツはその南10kmにある街でライン下りの出発点でもある。マンハイムは更に南50kmの古都であり、18世紀には可成りの権勢を誇っていたと云う。今年の春前橋商業の吹奏楽団が招待された街でもある。此所から北へ上り、フランクフルトに近づくとダルムシュタットがある。これらの街を忙しく一巡りして戻ると夜になった。翌日はケルンに行く。多分何か音楽があるだろうと思ったが生憎この日は空振りであった。望みを南隣りのボンに託した所、此所のオペラハウスでロッシーニの「セビラの理髪師」を上演していた。劇場の近くのホテルへ泊まることにしたが、何とその名前は「ベートーヴェン」である。因みにその生家は街の中心にあり観光客で賑わっている。

アルテオーパの演奏会（フランクフルト）

フランクフルトへ戻ってみると、アルテオーパにガラコンサートがあると云うので彼女を誘った。ガラとは本来お祭りの意味だが、有名な声楽家を集めた云わば顔見せ演奏会なのである。歌手も楽団もロシヤからの訪問で広いホールは聴衆で一杯であった。９人の歌手は夫々得意の持ち歌を披露した楽しいコンサートであった。

翌日は市の中心部にあるゲーテ大学の隣にある博物館へ行く。彼女は大学で成人向けの講座を受講すると云う。こんな具合で勝手気儘な独り旅の５日間であった。

〝寒暖〟

年ごとに暑さを重く感じて
行末を心細く思ふこのごろ

十五夜の月冴える空見上げつつ
寒さに向ふ冬を感じて

前橋市　土屋喜代子

8月28日　役員会・於 落合築

後列左より　平形、北爪、高橋、角田、小林、木暮
前列左より　豊泉、須郷、渋川、井口、土屋の各氏

ケルン日本文化会館

ケルンには過ぎたるものが三つある。ひとつはドーム、ふたつめはケルシュ（ドイツで一番うまいビール）、三つ目はケルン日本文化会館です。そうです、ケルンには日本文化会館があるのです。ローマの会館と並び、日本が世界に有するただ二つの文化会館のひとつです。（来春、パリに三つ目ができます。）ケルンは、ドイツ最古の都市（トリーア、ボン等異論のあるむきもありますが、前後２回計８年半ケルンで暮したWahlkölnerとしては、ケルンに軍配をあげます。）で、その名の由来も、ローマの植民都市コローニュです。以来2000年にわたり、ケルンは、ドイツ語圏における文化・芸術（のみならずですが）の中心の一つとしての地位を堅持しております。御承知のように、ドイツには、その歴史的展開の故に、ベルリン、ドレスデン、フランクフルト、ハンブルク、ライプチッヒ、ミュンヘン、ヴィーン等文化・芸術活動の中心地がいくつもありますが、ケルンは、これら諸都市と比べ何の遜色もなく、特に、現代音楽、現代美術またメディア等の分野においては、全欧州的に見ても再高水準にあると評価されております。このような評価を裏付ける事実として、ケルンには、日本の他にイギリス、フランス、イタリア、ベルギー、アメリカの６つの文化会館がありますが、このように多くの外国文化会館が集中しているのは、ドイツではケルンのみです。これら文化会館の活発な活動により、ケルンの文化・芸術における創造活動は、きわめて多彩なものになっております。最近、ケルンの雑誌に"Stadt Revue"が、これら各国の文化会館に関する特集記事を組みましたが、日本文化会館については、「もし美を競うコンクールがあるとすれば、時代に左右されない優美さを備えた日本文化が輝かしい勝者になることは疑いない…同館は、外国の文化会館の中で唯一継続的にハイ・レベルのコンサートや講演、就中映画を提出してくれる…小津の傑作から最新のアバンギャルドに至るまであらゆる時代とジャンルの日本映画が紹介されている…最近のハイライトは、1994年度ノーベル文学賞受賞者大江健三郎の作家自身による自作の朗読会である…」とそのたたずまいと活動に高い評価を与えています。ケルンを訪れる際には、ドームとケルシュのみならず、是非とも日本文化会館を御訪問下さい。

国際交流基金　日本研究部長　清水　陽一

（筆者は、1993年４月から1996年３月までケルン日本文化会館々長を務めた。）

200 JAHRE SIEBOLD
die Japansammlungen Philipp Franz und Heinrich von Siebold

シーボルト父子のみた日本

生誕200年記念企画展

江戸東京博物館

シーボルト生誕200年記念
記念郵便切手発行

幕末の医師「シーボルト」

高崎市　須　郷　登世治

去る2月16日㈮、ドイツー日本研究所長、ヨーゼフ・クライナー（Dr. Josef Kreiner）さんからの御招待により、ぐんま日独協会から、平形会長はじめ、渋川の高橋徳光医師、高崎の豊泉、須郷の4名が、両国の江戸東京博物館における「シーボルト生誕200年記念講演会」に出席し、5人の先生方から、シーボルトについての研究を拝聴することができた。群馬に帰ってから、さっそく、手持ちの資料を参照しながら、シーボルトについて、少しまとめてみたので、お読み戴ければ幸いである。

シーボルト（Philip Franz von Siebold, 1796－1860）は江戸時代後期にオランダ東インド会社の日本商館付医員として来日したドイツ人医師で、南ドイツのヴェルツブルグに生まれ、大学卒業後、1823年ジャワに渡り、同年（文政6）長崎に来航、出島の商館勤務のかたわら、許可をえて長崎郊外鳴滝に学塾兼診療所（鳴滝塾）を開設した。

吉雄権之助たちオランダ通詞をはじめ、高野長英、伊東玄朴、美馬順三、高良斎たち多数の日本人を蘭学者として育成した。門人たちに課題を与えてオランダ語による論文を提出させ、これら提出論文とたくさんの収集資料に基づいて日本研究を進めた。26年春、商館長ドステュレルの江戸参府にづい行したシーボルトは、江戸の洋学者と交流し、幕府天文方高橋影保からは、クルーゼンシュテルンの「世界一周記」などと交換に、伊能忠敬の日本沿海実測図をもとにした地名いりの日本略図、えぞ地図、間宮林蔵「東韃紀行」を贈られ、幕府眼科奥医師土生玄硯からは開眼術伝授と交換に将軍から拝領した葵の紋服を贈られた。28年に帰国のためそれらを含む収集資料を積みこんだ乗船が台風で破損し、国外持ち出しを禁じられた地図などが積荷から発覚した。このため、シーボルトは出島に監禁されて取り調べを受け、翌年、国外追放処分を受けた。また高橋は死罪、土生は改易、天文方高橋配下の者、およびオランダの通詞ほか多数の関係者、洋学者が処罰され、洋学者弾圧事件となった。世にこれをシーボルト事件と言い、この時の台風は、シーボルト台風と名付けられた。

かくてオランダに帰ったシーボルトは研究成果を整理して大著「日本」を刊行（1832－54年）、「日本動物誌」「日本植物誌」をまとめた。彼の「江戸参府紀行」と「シーボルト日本交通貿易史」は「異国叢書」に集録されている。58年（安政5）日蘭通商条約が締結されると、翌年再び来日、62年まで滞在した。同行来日した長男アレキサンダーは、イギリス駐日公使館員となり、ついで明治政府の外務省に採用された。次男ハインリッヒも、オーストリー、ハンガリー公使館の通訳官・簿記官として維新後の日本で活躍し、条約改正問題などでは、兄弟で日本の側にたった活躍をした。さらに、この3人による膨大な日本関係文物の収集は、正しい意味でのジャパノロジー（日本学）をヨーロッパに根つかせる役割を果たしたのである。シーボルトの長崎滞在中の愛人其扇（ソノギ）との間に生まれた娘いねは、楠本いねと言い、後に女医になった。

このように、日本が近代的国家に生まれ変わろうとする激動の時代に、長崎に「鳴滝塾（ナルタキジュク）という塾を開いて、日本人にさまざまな学問を教え、多くの優れた人材を育てた。ここで医学をはじめ、西洋の学問を学んだ人たちが、日本の近代化に果たした役割は大きいものがあった。今年は、シーボルトが生まれてから200年（1976年2月17日が誕生日）、生誕200年を記念して、日本とドイツの両国で、いろんな記念行事が予定されている。

1978年の当時のシェール連邦大統領によって創設されたシーボルト賞の毎年恒例の授与式は、日本とドイツの学術交流のハイライトの一つになっている。本賞には7万5000マルクの賞金がつき、受賞者にはドイツに8ヵ月間、研修滞在することができる。昨年度の受賞者は、東京大学ドイツ学の松浦教授が選ばれた。

左より、高橋徳光、平形義人、須郷登世治、豊泉伊三男の各氏

惜　別

平　形　義　人

Prof. Dr. Josef Kreiner（ヨーゼフ・クライナー）: 1993. 6. 27ぐんまJ. D. G. 5周年大会公開記念講演『ドイツにおける日本のイメージ』で日独文化交流の奥深さ、日本の着物文化が欧州で大流行した話など、教わり、歴史の見方を開眼させて頂きましたが、東京九段に「ドイツー日本研究所」を立派に育てられて、本年8月ボン大学に帰られました。口癖の様に『私の研究所はぐんま日独協会と同年令です』とお励まし下さったことを感謝し、益々の御活躍をお祈りします。

尚、次の事項は先生が中心となった成果です。

(A)『世界に誇る琉球王朝文化遺宝展』
（浦添市美術館　1992）

(B)『ベルツ・コレクション～帰ってきた幕末・明治の絵画展』（上野松坂屋　1993）

(C)『シーボルト父子のみた日本』
（東京都江戸東京博物館　吹田市国立民族学博物館　1996）

Weller夫人のドイツ語俳句

高崎市　白　倉　卓　夫

十年ほど前になるだろうか。昔家族と住んだことのある南ドイツの小都市、ビベラッハに学会の帰途に立ち寄った私は、たまたまこの町で開かれていた日本週間にちなんで「俳句」について講演させられたことがある。それ以来、友人の奥さんであるE.Weller夫人はドイツ語の三行詩を書いては私の所に送りつづけた。本来、ドイツ語を俳句形態で翻訳することは困難で、作者の意図する点を的確に表現できないと思っている。しかしこれも日独相互理解に役立つのではないかと思い、これまで某俳句誌に敢えて投句させて戴いてきた彼女の俳句のいくつかを拾い出して紹介してみたい。翻訳に飛躍がある点はご容赦願いたい。

Goldener Blaetter Teppich bedeckt die Erde der Wind webt Muster	地に敷かる 紅葉　風は 柄を織る
Ringsum nur Nebel unheimlich der Kraehen Ruf, der die Stille bricht	霧深し 鳥声のありて 静破る
Warmes Kerzenlicht bringst die Seele zum Schwingen im dunklen Winter	燭光の 冬の闇中 魂揺らす
Feinstes Filigran spinneweden in Farbe des Morgens	くもの巣の 金銀細工 朝の色
Rot,schwarzegetupft mit flinken Beinchen krabbelst du Marienkaefer	赤と黒 点じてせわし 天道虫
Nebelmeer im Tal der Sonne waermender Strahl lueftet den Schleier	谷の霧 陽のさす刻の 揺るぎあり
Blaugrau senkt sich die Nacht ueber uns Wintermorgenrot verdraengt sie	鉛色の 夜明け払いて 冬茜
Wolkenhaufen, weiss zieht ihr am Sommerhimmel, zerfliesst, formt euch neu	夏の空 雲塊くずれ 貌新た
Donner und Blitze, durchdringen dunkle Wolken goettlich	黒き雲 透き雷光の 神さびて
Roter Weihnachtsstern flammengleich leuchten deine Blaetter-Scheinbluete	ポインセチア 焔のごとく燃ゆ 虚飾かな

追　悼

江尻進㈶日独協会副会長が８月２日御逝去され、去る８月６日の御葬儀にはぐんまＪ.Ｄ.Ｇ.として謹んで弔電と生花を捧げ追悼の弔意を表しました。思えば1990.４.15日の大会には主賓として御夫婦で御列席下され、小塩節先生の特別講演のあと、老神温泉に御一泊、折もよし沼田公園の満開の桜を満喫され、その後著はされた『ベルリン特電』（ハイマート12号参照）の生々しい話を直々に伺ったのも忘れ難い。

先生は東大卒業後ずっとドイツ駐在記者生活を送られ、又日本の新聞協会の設立以来の専務理事の重鎮で、前橋市内案内中、上毛新聞の発展を喜んで居られた。

"温故知新"
日独200年の交流

平成８年２月16日、シーボルト生誕二百年記念切手が日独両国により同日発行されました。また、６月30日まで東京都江戸東京博物館（両国国技館の隣り）の１階にてシーボルト展が催され、シーボルト父子３人が日本からドイツに持ち帰った約１万点に及ぶ蒐集物の中から、700点を精選して展覧されました。この里帰りの品々は保存管理が極めてよく、百数十年の昔の日本にタイムスリップさせてくれました。これこそ時間と空間を超越した日独交流の見本です。

明治９年に来日されたベルツ博士は、日本の豊富な温泉の有効利用を医学的立場から説き、『日本鉱泉論』（伊香保ベルツの湯別館の日本温泉資料館所蔵、明治13年発行。）を著しました。伊香保や草津はベルツ博士により世界の名湯と知られるようになりました。

昭和８年５月敦賀に上陸し、桂離宮や伊勢神宮の西洋にない建築文化に触れ、これぞ日本のアイデンティティと評価して、日本美の再発見者と称えられたブルーノ・タウトは３年間の滞日中２年余（昭和９年８月～11年10月）を高崎市少林山達磨寺境内の洗心亭にて過ごされました。下の写真のように和室二間の純日本家屋です。この住居から日本の文化、人類の文明について膨大かつ深遠な著述が生まれたことは驚嘆の他はありません。

"我日本の文化を愛す""洗心亭は日本における私たちの故郷"と云い高崎の少年少女の夏季学校と交流したり、碓氷川の洪水に義捐金を送ったり、離日に際しては八幡村民の打ち振る旗に感動したこと等々日記に残されました。（『もうひとりのブルーノ・タウト』朝雲久兒臣著・ぐんま日独協会協賛）

このような群馬にちなむ日独交流の跡を訪ね、温故知新の心をもって、日独親善を末永く発展継続させるのも、私たち群馬の使命と存じます。

少林山達磨寺境内のブルーノ・タウト洗心亭の内部と外観

石橋長英先生七回忌

石橋長英先生七回忌は、神田一橋の如水会館で９月21日長男長久氏の挨拶で始まり、柴又帝釈天山主望月日翔師の献盃と夫々の回顧談で時の経つのを忘れる程であった。医師でありながら日独交流を外交官も及ばぬ程にお尽し下さった方は他にないと御生前、武見太郎先生が激賞された。トラベルデザインK.K社長榎本季泰氏は先生の口癖は３Ｍで、それはMEDIZIN(医学), MUSIK(音楽), MENSCHLICHKEIT(親切)だと。生前の森下弘日本新薬社長は"石橋先生はドイツに来ると水を得た魚の様にお元気だ！"と述懐された。1959年、先生のお伴をしてドイツを学んだ私はぐんまＪ.Ｄ.Ｇ.の発足の時に日本国際医学協会理事長としての祝電を頂いたことを感謝し、御高徳を偲んで献花してまいりました。　平形　義人

「国際交流まつり」へ
是非どうぞ

◉ ～"防災" 在住外国人との共生・共存をめざして～
◉日　時　平成８年11月３日（日）　10時～４時
◉会　場　群馬アリーナ（前橋市関根町）
※昨年同様「ブースステント」に、ぐんま日独協会の活動、資料を展示します。（第9回全国スポレクと同時開催）

予　告
ぐんま日独協会９周年大会
（公開講演）

◆日　時　97年４月25日（金）PM １：30～４：30
◆場　所　高崎市　シティギャラリー　コアホール
（高根町35－1　TEL 0273－28－5050）
ドイツ大使御招待予定　一般聴講歓迎
（地下大駐車場完備、B10附近を利用便利）
※駐車場半額割引券あり。

クイズ（答）
①ミュンヘン　②リューベック　③ベルリン
④ケルン　⑤ブレーメン　⑥ハーメルン
⑦シュヴァンガウ　⑧ローテンブルク

◇原稿ご案内◇

日独交流につながるご感想・情報・会員消息・作品を住所・氏名・職業・年令・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただくことがあります。（800字以内）
◎原稿の返却は致しません。宛先は表紙参照。